



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

〜第二十号〜

寒露

十月九日



## いただきます

神無月十月、伊勢神宮では神嘗祭を迎えます。神さまに新穀を供え、秋の実に感謝するお祭りは、一年のうちで最も大切にされてきました。私たちも新米を口にする、うれしい季節です。

私たちは、食事を前に「いただきます」と手を合わせるものがごくあたり前に育ちました。近頃ではミツシヨンスクールに通う子どもが、「アーメン」と十字を切ったので親が驚いた、なんていう笑い話もあるほどですが、案外、「いただきます」を言わない場面が出てきたようです。

例えば、フランス料理やイタリア料理のレストランでフォークやナイフを目の前にすると、なんとなく手を合わせることに違和感を覚えなくはありません。さらにワインで乾杯となると、タイミングを逃してしまいます。

これが和食の会席料理になると、乾杯から始まって終わりにご飯と汁物が並べられると、なんとなく手を合わせてしまうことがあります。ひよつとすると、私たちは白いご飯を食べることに喜び、「いただきます」と手を合わせていたのかもしれない。

「いただきます」には、「命をいただく」という意味もあるようですが、米を作る農家の人々の苦勞に、ご飯を炊いた人へのねぎらい、あるいは米を無事に育ててくれた大いなる自然への畏敬の念、さまざま感謝が含まれていると思います。さらには、米にはほかの食物よりも、ありがたさが強いように感じられるのです。きっと日本人は米に宿る神さまを見てきたのではないのでしょうか。

今日も「いただきます」。あたり前に手を合わせる幸せがあります。

文 千種清美